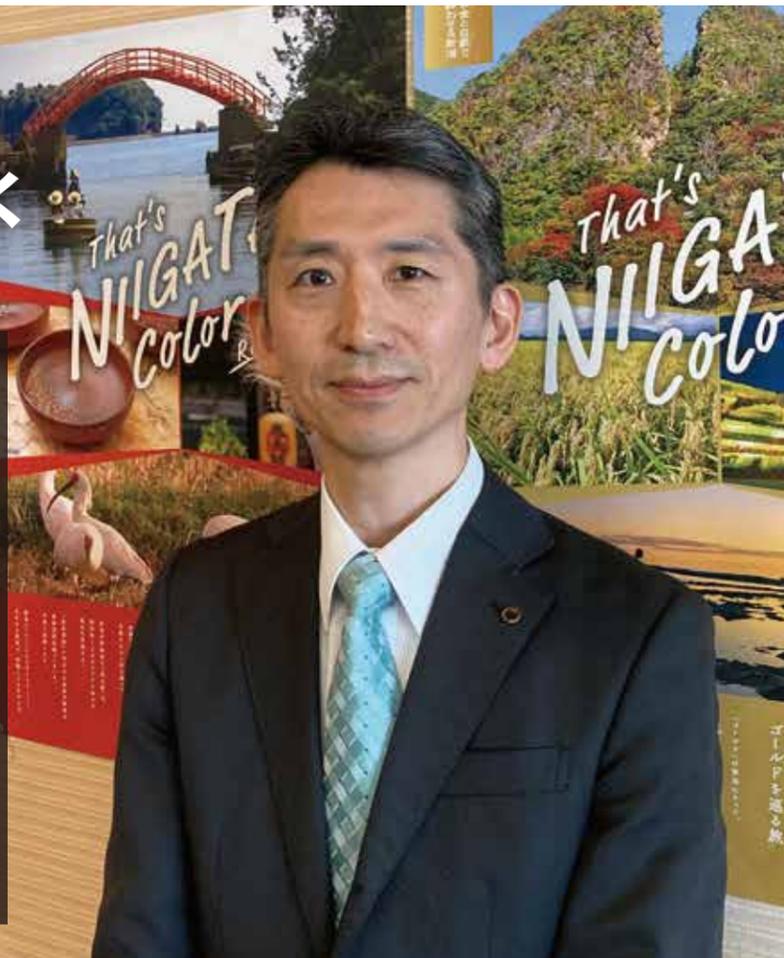


前を向いて歩いていく

新潟県副知事

鈴木 康之 SUZUKI Yasuyuki

平成 10年 4月 自治省採用
財政局財政課
平成 10年 8月 大分県総務部地方課
平成 11年 7月 自治省消防庁救急救助課
平成 13年 4月 総務省自治行政局選挙部政治資金課
平成 14年 4月 同 自治財政局財政課
平成 16年 4月 鳥根県地域振興部地域政策課主査
平成 17年 4月 同 健康福祉部青少年家庭課長
平成 19年 4月 同 政策企画局政策企画監室政策企画監
平成 20年 4月 同 総務部財政課長
平成 22年 4月 総務省自治行政局住民制度課課長補佐
平成 23年 4月 同 自治行政局選挙部政治資金課課長補佐
平成 24年 4月 同 自治行政局選挙部選挙課課長補佐
平成 27年 7月 同 大臣官房秘書課企画官
平成 29年 7月 山梨県総務部長
令和 2年 7月 自治体国際化協会ロンドン事務所長
令和 5年 7月 同 事務局長
令和 6年 7月 現職



人口減少社会を考える

私が勤務している新潟県においても、人口減少が最大の課題です。ピーク時は約250万人いた県人口も、現在は210万人を切りました。

ただ、この縮小社会にあっても、いたずらに悲観主義に陥ることなく、自分なりの根拠を伴った楽観主義をとるように心がけています。例えば、私が近年勤務したヨーロッパでは、国家全体の人口が500万人台にも関わらずDXや環境分野などで存在感を発揮している国が、デンマークやフィンランドをはじめいくつかあります。それを考えると、自治体レベルで200万人を超えているというのは、まだそれなりに大きな規模と言えるでしょう。

もっとも、人口が減少していくという状況の変化に適切していくことは必要です。新潟県においても高校や病院の再編などの難しい社会課題に取り組んでいます。

物事の本質を見極める

時々状況に合わせて制度・事業の創設や変更を検討していく際、学業で培ってきた論理的思考だ

けでなく、そもそもの課題の設定も重要です。その際、様々な現場を経験して磨かれた感性と知見が、筋の良い問いを生み出します。

また、新潟県出身の大政治家である田中角栄氏も言われていますが、法律というものは、一言一句が大変な意味を持っているとともに、その背後には数々のドラマがあります。私が課長補佐時代に携わった公職選挙法や政治資金規正法は、特にその傾向が強いでしょう。「なぜその条文が生まれ、そして今の姿になったか」ということを丁寧にひもとくことが、地方勤務時を含めた様々な場面において、「何が課題の本質で、それに対してどうすべきか」ということを見極める力につながっていると感じます。

筋書きの無い人生を楽しむ

スポーツ観戦にあたり、仮に試合経過があらかじめ分かっていたとしたら、その面白みは大きく減じられるでしょう。私にとっては、自分の人生についても同じです。これまでの27年間は、選挙・政治資金制度を担当したことや海外での勤務を含め、入省時には予期していなかったことの連続でしたが、結果的にはどれもかけがえのない経験ばかりでした。もちろん現在の副知事という職も、広い視野から日

本社会の未来を考えることができる貴重な機会となっています。

近年は私の就職時に比べ、女性・男性を問わずオーダーメイドの人事設計がされています。未来について不安に思いすぎることなく、一緒に前を向いて歩いていきましょう。



アルビレックス新潟レディースの表敬訪問



五泉市さといもまつりに参加

外交官として

私は現在、ロンドンにある在英日本国大使館に出向し、外交官として情報通信・デジタル分野を担当しています。

大使館での私の主な仕事は、情報収集・分析、協力推進、そして交渉です。英国の政策動向は日本にとっても多くの示唆を与えるものであり、例えば、2023年に成立した違法有害情報対策のためのSNS規制法である「オンライン安全法」の立法過程や事業者の反応について正確かつ迅速に日本へ伝えることは重要な業務のひとつです。

英国がAIに関するハイレベルな国際会議を主催した際には、アジェンダ等について英国政府と緊密にやりとりし、ときには、G7やOECDなどの国際フォーラムで積み重ねてきた議論と異なるアプローチを提案する英国に対し、日本の立場を明確に主張して交渉に臨むこともありました。また、群馬県でG7デジタル・技術大臣会合が開催された際には、英国政府代表団のサポート役として帰国・同行しました。このような場面では、日本を代表しているという責任とやりがいを実感します。

これまで培った経験を活かす

現職に就く以前は、総務省でブロードバンド整備推進のための法制度改正や5Gの整備・活用を推進する政策立案を担当してきました。こうした経験は、外交の現場でも大いに役立っています。英国の規制当局とブロードバンド整備推進や周波数政策について議論した際には、私自身が日本で直面した課題や導入した制度を詳しく伝えたことで、共通する課題に向き合う者同士としての信頼感が芽生えました。このような相互理解を通じ、協力関係が深化することを感じる場面が多くあります。

未来をつくる仕事

学生時代、漠然と「社会を変革する情報通信政策に携わり、グローバルな舞台で活躍したい」と考えていました。入省後、日本での政策立案、米国大学院への留学を経て、現在、英国で外交官として、AI、サイバーセキュリティ、偽誤情報対策、サプライチェーン多様化といった最前線の分野で日英協力を推進していることは、当初の想像を超えて自分の世界が大きく広がったと感じています。総務省で

は、これからも予測もつかないような挑戦が待っているでしょう。もし、国内外で多様なフィールドに挑戦し、社会をより良い方向に変えていく仕事をしたいのであれば、総務省はそれを実現できる場だと確信しています。



英国主催AI安全性サミットに参加



G7デジタル・技術大臣会合の夜、英国政府代表団と浴衣で懇親

グローバルに広がる挑戦の場

外務省在英日本国大使館
一等書記官

甚田 桂 JINDA Katsura

平成 22年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
平成 24年 8月 情報流通行政局情報通信作品振興課流通調整係長心得
平成 25年 7月 情報流通行政局情報通信作品振興課流通調整係長
平成 26年 7月 自治財政局調整課主査
平成 28年 7月 情報流通行政局郵政行政部貯金保険課課長補佐心得
平成 29年 7月 米国留学(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)
令和 元年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
令和 3年 7月 情報流通行政局地域通信振興課課長補佐
令和 4年 6月 現職